

学校教育目標	豊かななかかわりの中で ともに輝く ひがまっ子												
	ひ	拓く子	自ら問題を発見し、主体的に考え、よりよく解決する子 (知)										
	が	感謝する子	自他を大切にし、互いのよさを認め合う子 (徳)										
	ま	まっすぐ素直な子	心身ともにたくましく生きる子 (体)										
	たっ	高め合う子	夢や目標をもち、他者と協働し、高め合う子 (公)										
	こ	行動する子	自分の思いをもち、自ら進んで行動する子 (開)										
学校概要	創立	36	周年	学校長	岡田 浩	副校長	中山 純子	2	学期制	一般学級	11	個別支援学級	2
	児童生徒数:			304 人		主な関係校: 大正小学校 小雀小学校 大正中学校							

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大正中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<主体的な学び>  <人とのかかわり>	大正中学校 大正小学校 小雀小学校 東俣野小学校	課題解決に向けて、学習に向かう姿勢を身につけ、粘り強く学ぶ子ども  ○「主体的・対話的で深い学び」を目指した合同授業研究、協議会(年2回) ----- ○児童・生徒一人ひとりの課題や教育的ニーズをきめ細かく捉え、ニーズに応じた指導・支援を行うための合同研修会、情報交換会の開催。 ○地域の人的・物的資源を活用し、社会教育との連携を図り、子ども像を社会と共有・連携しながら実現させる。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すずんで学習に取り組み、自分の考えを表現し、高め合う子どもを育てます。</li> <li>○ 思いやりの心をもって、互いに支え合う子どもを育てます。</li> <li>○ 規則正しい生活を心がけ、心身ともに健やかな子どもを育てます。</li> <li>○ 地域の人や自然とのかかわりを大切にし、ともに生きる子どもを育てます。</li> <li>○ 人とのコミュニケーションを通して、多様性を尊重する子どもを育てます。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td style="background-color: yellow;">学習指導</td> <td>                     ①意欲的に学び続ける子どもの育成を目指すために、学年研やブロック研を活用し、学年協働で学習計画や教材研究を進める。                      ②日々の学習や重点研究を通して、主体的に課題と向き合い、友達と考えや思いを共有しながら、自分の思いを自信をもって伝えて問題解決していけるような意図的な場の設定や支援を行う。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>重点研推進委員会</td> <td></td> </tr> </table>	知	学習指導	①意欲的に学び続ける子どもの育成を目指すために、学年研やブロック研を活用し、学年協働で学習計画や教材研究を進める。 ②日々の学習や重点研究を通して、主体的に課題と向き合い、友達と考えや思いを共有しながら、自分の思いを自信をもって伝えて問題解決していけるような意図的な場の設定や支援を行う。	担当	重点研推進委員会		
知	学習指導	①意欲的に学び続ける子どもの育成を目指すために、学年研やブロック研を活用し、学年協働で学習計画や教材研究を進める。 ②日々の学習や重点研究を通して、主体的に課題と向き合い、友達と考えや思いを共有しながら、自分の思いを自信をもって伝えて問題解決していけるような意図的な場の設定や支援を行う。					
担当	重点研推進委員会						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td style="background-color: yellow;">人権教育 道徳教育</td> <td>                     ① 道徳教育においては、別業・単元配列表・学年ごよみを活用しながら意図的、計画的に実施していく。                      ② たてわり活動、特別支援学校との交流、ペア学年での交流、地域の方々とのふれあい                      (敬友会、安全サポート、クラブボランティア、図書ボランティア、風の会の方々、ケアプラザ、朝日の里等)等さまざまな人とかわる活動を積極的に取り入れ、学年ごよみや学年ノートに記載していく。また、直接交流をすることが難しい場合は、学年に応じてICT機器を活用して交流を継続していく。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>人権福祉特支交流・道徳部</td> <td></td> </tr> </table>	徳	人権教育 道徳教育	① 道徳教育においては、別業・単元配列表・学年ごよみを活用しながら意図的、計画的に実施していく。 ② たてわり活動、特別支援学校との交流、ペア学年での交流、地域の方々とのふれあい (敬友会、安全サポート、クラブボランティア、図書ボランティア、風の会の方々、ケアプラザ、朝日の里等)等さまざまな人とかわる活動を積極的に取り入れ、学年ごよみや学年ノートに記載していく。また、直接交流をすることが難しい場合は、学年に応じてICT機器を活用して交流を継続していく。	担当	人権福祉特支交流・道徳部		
徳	人権教育 道徳教育	① 道徳教育においては、別業・単元配列表・学年ごよみを活用しながら意図的、計画的に実施していく。 ② たてわり活動、特別支援学校との交流、ペア学年での交流、地域の方々とのふれあい (敬友会、安全サポート、クラブボランティア、図書ボランティア、風の会の方々、ケアプラザ、朝日の里等)等さまざまな人とかわる活動を積極的に取り入れ、学年ごよみや学年ノートに記載していく。また、直接交流をすることが難しい場合は、学年に応じてICT機器を活用して交流を継続していく。					
担当	人権福祉特支交流・道徳部						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td style="background-color: yellow;">健康教育</td> <td>                     ① 家庭と協力しながら子どもが自ら望ましい生活習慣を身に付けることができるように、振り返りの時間を各クラスでとりながら「生活リズムチェックカード」に年間を通して取り組む。                      ② 体力テストの結果をもとに、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら進んで多様な運動遊びを行っていくことができるように、朝の体力づくりや運動委員会が主催する中休み遊びを行う。また、保護者向けに体力テストの結果を周知し、それを踏まえて家庭でも継続的に運動を行うことができるように投げかける。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育部・保健部</td> <td></td> </tr> </table>	体	健康教育	① 家庭と協力しながら子どもが自ら望ましい生活習慣を身に付けることができるように、振り返りの時間を各クラスでとりながら「生活リズムチェックカード」に年間を通して取り組む。 ② 体力テストの結果をもとに、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら進んで多様な運動遊びを行っていくことができるように、朝の体力づくりや運動委員会が主催する中休み遊びを行う。また、保護者向けに体力テストの結果を周知し、それを踏まえて家庭でも継続的に運動を行うことができるように投げかける。	担当	体育部・保健部		
体	健康教育	① 家庭と協力しながら子どもが自ら望ましい生活習慣を身に付けることができるように、振り返りの時間を各クラスでとりながら「生活リズムチェックカード」に年間を通して取り組む。 ② 体力テストの結果をもとに、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら進んで多様な運動遊びを行っていくことができるように、朝の体力づくりや運動委員会が主催する中休み遊びを行う。また、保護者向けに体力テストの結果を周知し、それを踏まえて家庭でも継続的に運動を行うことができるように投げかける。					
担当	体育部・保健部						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公開</td> <td style="background-color: yellow;">自分づくり(キャリア教育)</td> <td>                     ① 総合や生活科各教科、学校行事を通して特別支援学校の友達や地域、外部と直接関わることができる活動を積極的に設け、他者とのかかわり、共に活動することで一人ひとりが自己有用感を高めていけるようにする。                      ② 「自分づくりパスポート」を活用しながら、自らの学習状況ややりたい自分の姿を見通し振り返り、子ども自身が自分で成長や変容に気づき、自己評価できるようにしていく。また子供の必要に応じて、教師も声掛けを継続して行っていく。さらに家庭との連携を図るために年に2回、面談の時に「自分づくりパスポート」を提示し、励ましのコメントを家庭からも記入してもらうように働きかけていく。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>総合部・特別活動部</td> <td></td> </tr> </table>	公開	自分づくり(キャリア教育)	① 総合や生活科各教科、学校行事を通して特別支援学校の友達や地域、外部と直接関わることができる活動を積極的に設け、他者とのかかわり、共に活動することで一人ひとりが自己有用感を高めていけるようにする。 ② 「自分づくりパスポート」を活用しながら、自らの学習状況ややりたい自分の姿を見通し振り返り、子ども自身が自分で成長や変容に気づき、自己評価できるようにしていく。また子供の必要に応じて、教師も声掛けを継続して行っていく。さらに家庭との連携を図るために年に2回、面談の時に「自分づくりパスポート」を提示し、励ましのコメントを家庭からも記入してもらうように働きかけていく。	担当	総合部・特別活動部		
公開	自分づくり(キャリア教育)	① 総合や生活科各教科、学校行事を通して特別支援学校の友達や地域、外部と直接関わることができる活動を積極的に設け、他者とのかかわり、共に活動することで一人ひとりが自己有用感を高めていけるようにする。 ② 「自分づくりパスポート」を活用しながら、自らの学習状況ややりたい自分の姿を見通し振り返り、子ども自身が自分で成長や変容に気づき、自己評価できるようにしていく。また子供の必要に応じて、教師も声掛けを継続して行っていく。さらに家庭との連携を図るために年に2回、面談の時に「自分づくりパスポート」を提示し、励ましのコメントを家庭からも記入してもらうように働きかけていく。					
担当	総合部・特別活動部						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">いじめへの対応</td> <td></td> <td>                     ① 児童アンケートや子ども一人ひとりと話す機会や普段の様子から、日常に潜むいじめを積極的に認知し、子どもの心に寄り添っていくことを徹底する。                      ② 日常より児童の情報についてお互いに交換し、いじめに対しては個人でなく組織として対応していく。いじめ対策委員会、ケース会議等で話し合った内容を共通理解する機会を設ける。                      ③ いじめ防止研修を実施し、全教職員のいじめに対するアンテナを高くする。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>いじめ防止対策委員会</td> <td></td> </tr> </table>	いじめへの対応		① 児童アンケートや子ども一人ひとりと話す機会や普段の様子から、日常に潜むいじめを積極的に認知し、子どもの心に寄り添っていくことを徹底する。 ② 日常より児童の情報についてお互いに交換し、いじめに対しては個人でなく組織として対応していく。いじめ対策委員会、ケース会議等で話し合った内容を共通理解する機会を設ける。 ③ いじめ防止研修を実施し、全教職員のいじめに対するアンテナを高くする。	担当	いじめ防止対策委員会		
いじめへの対応		① 児童アンケートや子ども一人ひとりと話す機会や普段の様子から、日常に潜むいじめを積極的に認知し、子どもの心に寄り添っていくことを徹底する。 ② 日常より児童の情報についてお互いに交換し、いじめに対しては個人でなく組織として対応していく。いじめ対策委員会、ケース会議等で話し合った内容を共通理解する機会を設ける。 ③ いじめ防止研修を実施し、全教職員のいじめに対するアンテナを高くする。					
担当	いじめ防止対策委員会						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">人材育成・ 組織運営(働き方)</td> <td></td> <td>                     ① ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図り、全職員の働き方改革を推進する。                      ② 週に一回主幹連絡会を行い、学校運営が円滑に進められるよう話し合う場を設ける。                      ③ 10年次未満の教職員を中心としてメンターチームを作り、自分たちで立てたテーマに沿って、ミドルリーダーを中心として月一回の活動を行う。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部 メンターチーム</td> <td></td> </tr> </table>	人材育成・ 組織運営(働き方)		① ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図り、全職員の働き方改革を推進する。 ② 週に一回主幹連絡会を行い、学校運営が円滑に進められるよう話し合う場を設ける。 ③ 10年次未満の教職員を中心としてメンターチームを作り、自分たちで立てたテーマに沿って、ミドルリーダーを中心として月一回の活動を行う。	担当	教務部 メンターチーム		
人材育成・ 組織運営(働き方)		① ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図り、全職員の働き方改革を推進する。 ② 週に一回主幹連絡会を行い、学校運営が円滑に進められるよう話し合う場を設ける。 ③ 10年次未満の教職員を中心としてメンターチームを作り、自分たちで立てたテーマに沿って、ミドルリーダーを中心として月一回の活動を行う。					
担当	教務部 メンターチーム						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">児童指導</td> <td></td> <td>                     ① 一人ひとりの子どもを全職員で育てるという意識のもと、子どもの様子を日常的に話したり、指導の手立てについて会議で共通理解を図ったりして具体的な手立てやかかわり方を考える。                      ② Y-Pアセスメント・横浜プログラムを活用し、具体的な支援・指導するための研修を行い実践する。                      ③ 学校のきまりやスタンダードについてブロックごとに年に2回の共通理解を図り、子どもに同様の指導をする。また、ICT活用のルールについても明記することや、学校のきまり等が社会情勢に沿っているかの検討を定期的に児童指導部が行う。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導部</td> <td></td> </tr> </table>	児童指導		① 一人ひとりの子どもを全職員で育てるという意識のもと、子どもの様子を日常的に話したり、指導の手立てについて会議で共通理解を図ったりして具体的な手立てやかかわり方を考える。 ② Y-Pアセスメント・横浜プログラムを活用し、具体的な支援・指導するための研修を行い実践する。 ③ 学校のきまりやスタンダードについてブロックごとに年に2回の共通理解を図り、子どもに同様の指導をする。また、ICT活用のルールについても明記することや、学校のきまり等が社会情勢に沿っているかの検討を定期的に児童指導部が行う。	担当	児童指導部		
児童指導		① 一人ひとりの子どもを全職員で育てるという意識のもと、子どもの様子を日常的に話したり、指導の手立てについて会議で共通理解を図ったりして具体的な手立てやかかわり方を考える。 ② Y-Pアセスメント・横浜プログラムを活用し、具体的な支援・指導するための研修を行い実践する。 ③ 学校のきまりやスタンダードについてブロックごとに年に2回の共通理解を図り、子どもに同様の指導をする。また、ICT活用のルールについても明記することや、学校のきまり等が社会情勢に沿っているかの検討を定期的に児童指導部が行う。					
担当	児童指導部						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">特別支援教育</td> <td></td> <td>                     ① 年2回の個別の指導計画の見直しを図りながら、担任、児童支援専任、級外職員、管理職が連携して情報を共有し、一人ひとりに合った指導・支援をしていく。                      ② 個別支援学級児童と一般級児童との交流の方法を考え、一人ひとりに合った教育活動を行えるよう連携強化を図り、打合せ等を積極的に行う。                 </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別支援教育コーディネーター</td> <td></td> </tr> </table>	特別支援教育		① 年2回の個別の指導計画の見直しを図りながら、担任、児童支援専任、級外職員、管理職が連携して情報を共有し、一人ひとりに合った指導・支援をしていく。 ② 個別支援学級児童と一般級児童との交流の方法を考え、一人ひとりに合った教育活動を行えるよう連携強化を図り、打合せ等を積極的に行う。	担当	特別支援教育コーディネーター		
特別支援教育		① 年2回の個別の指導計画の見直しを図りながら、担任、児童支援専任、級外職員、管理職が連携して情報を共有し、一人ひとりに合った指導・支援をしていく。 ② 個別支援学級児童と一般級児童との交流の方法を考え、一人ひとりに合った教育活動を行えるよう連携強化を図り、打合せ等を積極的に行う。					
担当	特別支援教育コーディネーター						
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">担当</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	担当						
担当							
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">担当</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	担当						
担当							